

choice
for the
Future

街と紡ぐ物語

街に暮らす人。街で働く人。街を訪れる人。
街には、いろいろな登場人物がいます。
そして、その一人ひとりに物語があるのです。

私たちそごう・西武は、街の一員として、
皆さまそれぞれの物語をつなぎあわせ、
新しい物語をつくり出すのが得意です。

たのしい物語。うれしい物語。おもしろい物語。
さて、今日は、いくつの物語が生まれるでしょう。
さあ、今日も、皆さまとご一緒に。





みどりの物語

西武池袋本店の「食と緑の空中庭園」は、かつてテーブルと椅子のみだった殺風景な屋上をリニューアルして2015年に誕生。印象派を代表する画家クロード・モネの作品からインスピレーションを得て造園された「睡蓮の庭」や、全長約165mの壁面緑化「グリーンウォール」、芝生の広場「グラスフィールド」など、多様な自然が憩いを提供するとともに、昆虫や鳥たちの移動に必要な休息場となっています。2016年には、社会、環境に貢献し良好に維持されている緑地として、公益財団法人都市緑化機構の「SEGES都市のオアシス」に認定。2021年には「街ナカみどり都市のオアシスガーデンツアー」に参加するなど、積極的に屋上緑化の意味や利活用について紹介する活動を行っています。

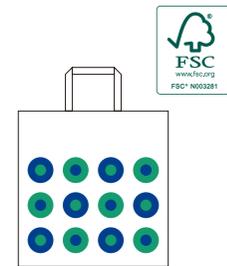
植樹・育樹

プレゼントギフトをご注文の際に、税込100円の「グリーンラッピング」をお選びいただくと、その内の50円が認定NPO法人環境リレーションズ研究所への寄付となり、80件で1本分の植樹になります。また、お中元やお歳暮ギフトの簡易包装は4,000件、お買い物袋は1万枚の削減で、それぞれ1本分の植樹につながります。



森林資源保護

2020年7月からのレジ袋有料化義務化に伴い、そごう・西武ではプラスチック製のお買い物袋だけでなく、紙製のお買い物袋もFSC認証の素材に切り替え有料化することで使用量の削減を推進。また、承り伝票をお渡しする際の袋には、廃棄焼却処分される古い紙幣の再生紙を利用するなど、森林資源の保護に努めています。



こどもの物語

各店では積極的にお子さまにご参加いただけるイベントやワークショップを開催しています。

西武池袋本店では、女性にやさしいまちづくりを推進する

豊島区の公民連携プラットフォーム「FFパートナーシップ協定」のパートナーとして、

「図書館司書によるわくわくおはなし会」など、子育て支援を応援するイベントを定期的に開催。

そごう広島店の屋上では、地元のNPO法人セルクルと連動した「こども農業体験」、

西武東戸塚S.C.ではJR東戸塚駅と連動した「鉄道フェア」を開催しました。

また西武渋谷店では、東京都教育委員会の事業に協力し、都立高校生に職場体験の場を提供。

各店舗とも地域の皆さまと連動することで、より記憶に残る体験を提供しています。

途上国支援

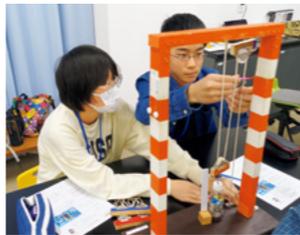
各店に「こども靴下取りコーナー」を常設し、使わなくなったこども靴1点につき、こども服売場でのお買い上げ税込5,000円ごとに1枚ご使用いただける「500円割引券」とお引き換えしています。お預かりしたこども靴は、国際協力NGOジョイセフを通じてザンビア共和国に届けられ、こどもたちの足を寄生虫病や破傷風から守っています。



©国際協力NGOジョイセフ

教育ビジネス事業

商事事業本部では未来世代に向けた教育事業を推進しています。世田谷区が、子ども支援、保護者支援、教員支援の拠点として、2021年12月に開設した世田谷区立教育総合センター内にある、区民交流エリア「えがおの森」の運営およびワークショップの企画立案などを受託しています。





「かおの物語」

視覚に障がいのある方や盲導犬へのご理解を深めていただくために、
全店で盲導犬のかたちをした大型募金箱の常設をはじめ、各店では年2回「盲導犬キャンペーン」を開催しています。
また、社内でも従業員を対象に、視覚に障がいのある方や
盲導犬ユーザーへの正しい対応を学ぶ「盲導犬受入れセミナー」を定期的で開催するほか、
従業員が任意で毎月の給与から自動引落で積み立てている「ワン!コイン倶楽部」の募金を実施。
お客さまからの店頭募金とあわせ、全国の盲導犬育成団体に寄付しています。
最近では店舗と隣接する鉄道会社や学校などとの連携も増え、
2003年にスタートした活動は、20年の時を経て、やさしい街づくりへと輪が広がっています。

プレママステーション

「出産に向けて、何を準備したらいいのかわからない」、「育児について周りに相談できる人がいない」など、初めて出産・育児を経験するママたちのために、一部店舗ではお悩み解消カウンター「プレママステーション」を設置。新米ママの不安や悩みに、常駐の助産師がお応えします。また、親子で楽しめるイベントも開催しています。



フードドライブ

各店では、お客さまのご家庭で眠っている食品をご提供いただき、自治体やNPO等を通じて、食べ物に困窮するご家庭や施設にお届けする活動を実施しています。食品を寄付したお客さまのやさしいお気持ちが、食品を受け取ったご家庭や施設の方々へ伝わり、笑顔になると同時に、食品ロスの削減にもつながる取り組みとなっています。



つどいの物語

そごう千葉店では2022年より千葉市と連携し、店舗近隣の公共空間における有効活用の実証実験を行っています。

そごう千葉店の若手社員を中心としたプレイスメイキングプロジェクトメンバーが、千葉市都市局の若手職員や千葉大学の学生、地元の方やお勤めの方が気軽に立ち寄り、屋外広場「センシティガーデン」をベースに、地域の方やお勤めの方が気軽に立ち寄り、ホットとできる居心地の良い空間「KUTSUROGIBA」を定期的に設置。

設置前後の客層や行動の変化などを検証し、次のプロジェクトへとつなげています。

実証実験イベントを重ねるうちに、「千葉のまちを一緒に盛り上げたい」と考える地域の方々の参加も増え、取り組みの輪が広がってきました。

桜咲く春を楽しむ(4月)

普段はただ通り過ぎるだけの道路にテーブルと椅子を設置して桜を眺める場所に。近隣のお店にも参加いただき、ドリンクや軽食を販売しました。また、過去2回の開催で「まちにはお子さまが遊ぶ風景が必要」との気づきを得て、人工芝の遊び場を拡大。お子さまが走り回る横で、まちの人びとが集い楽しむ春のひとつを提供しました。



夕涼みを楽しむ(7月)

国道と店舗をつなぎ、通勤・通学の大動脈となるブリッジは、日が沈むにつれ間接照明のある幻想的な雰囲気、風が通る涼を感じられる場所。このロケーションをいかし、キャンドルライトと、縁側に見立てた木製ベンチを設置。普段あまり見かけないカップルの姿もあり、千葉駅周辺で夕涼みを楽しむ新たな提案となりました。





「みらいの物語」

2021年9月、西武渋谷店にオープンした「CHOOSEBASE SHIBUYA」は、地球環境に寄り添った商品や、社会課題に取り組むブランドを中心に扱うメディア型OMOストア*です。“意味に会い、意志を買う”を売場コンセプトに、「モノ」に込められた想いや「ヒト」のストーリーを発信し、新たなブランドと新たな世代のお客さまがつながる場になることを目指しています。店頭とECの在庫をリアルタイムで連動することで、店頭で見つけた商品をあとからでも買いやすいスキームを構築。百貨店に受け継がれる編集力とECの世界が融合することで、新しいお買い物体験をお楽しみいただいています。

*OMOストア=店頭とECで顧客・商品・在庫情報が統一されたストア形態

food edit Chiba

2023年9月「千葉県の食」にフォーカスしたOMOストアがそごう千葉店にオープンしました。地域の生産者やブランドにとってハードルとなっていた販売員の手配、在庫管理、売上管理、販売促進、商品陳列などの付帯業務を百貨店担当者が代行。また、ECサイトにも同時出店していただくことで、幅広い販売機会を提供しています。



CSVアイデアコンペ

そごう・西武では、従業員各々が日ごろ感じている社会課題を解決すると同時に、百貨店の価値を高めることができるアイデアを募集する「CSVアイデアコンペ」を開催しています。2017年のスタートから6年間で寄せられたアイデアは1,895件。その中で実現したアイデアは、新しい百貨店づくりのヒントになっています。





私たちが物語をつくる時、
もっとも大切なのは「今までにない提案」です。

私たちのご提案で、お客さまの表情が、
またたく間に明るくなる。

この街に、そごう・西武のお店があってよかった。

その言葉を励みに、私たちはこれからも
想像以上の提案に心を尽くすのです。

そして、これからも、
物語は続きます。

そごう・西武の環境方針

環境方針

基本理念

私たちは、企業市民として社会的責任を自覚し、環境・社会・経済が一体となった事業活動を通じ、お客さまやお取引先、地域とともに、「次世代に続く豊かなくらしづくり」に取り組みます。

行動指針

1. 私たち自身の環境保全活動に加え、当社の事業活動を通じて、お客さまやお取引先の活動にも良い環境影響を及ぼすように努めます。
2. ①環境に配慮した品ぞろえやイベント、セミナーなどを通じたお客さまとのコミュニケーション強化
②社会貢献活動などを通じた地域、社会とのコミュニケーション強化
③地球温暖化防止対策や廃棄物の削減、リサイクルの推進などによる環境負荷の低減と環境保全の推進
④環境教育の継続による法令順守とリスクマネジメントの徹底
以上の活動を重点に、仕組みや手法の継続的な改善に取り組みます。
3. 従業員に対する継続的な教育と啓発活動を行い、一人ひとりが環境や社会問題に自発的に取り組むことにより、お客さまや地域社会に役立ち、信頼される企業を目指します。
4. 挑戦的な目標を設定し、一人ひとりが達成に向けた活動を実践しながら、結果の検証と改善を繰り返し、システムの向上を心がけます。

この環境方針は、従業員と当社のために働くすべての人に周知するとともに、一般の方々にも公開します。

2023年9月1日
株式会社そごう・西武
取締役 執行役員社長 田口 広人

ISO 14001に基づき 環境マネジメントを推進

そごう・西武は、1999年に西武全店で百貨店業界として初めて環境に関する国際規格ISO 14001の認証を取得しました。その後、2011年にはそごう全店に拡大し、現在はそごう・西武全店および全事業所で認証を取得しています。各店・各事業所では環境・社会貢献委員会を組織。社長が宣言した環境方針の達成に向け「次世代に続く豊かなくらしづくり」に取り組んでいます。



JQA-EM0401

そごう・西武の環境目標・2022年度実績

指標	2022年度実績	2050年目標	
CO ₂ 排出量	9.1万t (2013年度比：54.0%削減)	CO ₂ 排出量 ゼロ 再生可能エネルギー 100%	既存照明のLED化をはじめ、新技術を用いた設備システムの導入により省エネを推進。また自社の排出量(スコープ1+2)のみならず、スコープ3を含めた全体での削減を目指しています。
プラスチック製 お買い物袋使用量	34.1t (2013年度比：89.6%削減)	ゼロ	2020年7月からのレジ袋有料化義務化以降のお客さまのご理解とご協力により、プラスチック製お買い物袋のご辞退率は80%を超え大幅な削減につながっています。
食品廃棄物 (発生原単位*)	27.25kg (2013年度比：44.2%削減)	12.22kg (2013年度比：75.0%削減)	食品売場での発注精度向上に加え、レストランでは食べ切りや少量サイズメニューのご提案を推進しています。
食品廃棄物の リサイクル率	83.3% (2013年度比：29.7%向上)	100%	食品廃棄物の堆肥化やバイオエネルギーへの転換、サーマルリサイクルなど、各店ごとに食品リサイクルへの取り組みを実施しています。

*発生原単位：食品関連売上100万円当たりの食品廃棄物発生量

数字で見るそごう・西武

環境・社会貢献への取り組み

植樹・育樹

全国9カ所の地域に植樹した本数
2009年9月～2023年8月累計

 **19,604**本

ザンビア共和国へのこども靴寄贈

お客さまからお預かりしたこども靴
2009年9月～2023年8月累計

 **115万9,391**足

盲導犬育成支援

お客さまからお預かりした募金と従業員からの募金
2003年3月～2023年8月累計

 **7億3,582**万円

ホワイトリボン運動

栄養不足や不十分な保健医療サービスなどで、
命を落とす途上国の母子を救う活動に賛同



ホワイトリボンピンバッジ

販売の収益を寄付
2013年～2022年累計

322万5,268円

各店設置の飲料自動販売機

売上の一部を寄付
2013年～2023年8月累計

109万3,424円

災害支援

【トルコ南東部を震源とする地震被害への募金】

 **165万4,372**円

店舗数

2023年8月末現在



10店舗

西武店舗

池袋本店 渋谷店 所沢S.C. 東戸塚S.C. 福井店 秋田店

そごう店舗

横浜店 千葉店 広島店 大宮店

従業員数

2023年2月末現在



4,074名

営業収益

2023年2月期



4,963億円

女性管理職比率(係長級以上)

2023年2月末現在



24.7%

障がい者雇用率

2023年6月1日現在



2.5%

男性育児休業取得率

2022年度



46.7%

年次有給休暇取得率

2022年度



46.8%

認知症サポーター養成講座受講者数

2010年～2023年8月累計



5,154名

eco検定(環境社会検定試験)®合格者数

2014年～2023年8月累計



664名

株式会社 そごう・西武

お問い合わせ先

コーポレートコミュニケーション室 CSV推進担当

郵便番号 171-0022

東京都豊島区南池袋1-18-21 西武池袋本店書籍館

電話番号 03-6741-2812 FAX 03-6741-2814

(株)そごう・西武のサステナビリティ

<https://www.sogo-seibu.co.jp/sustainability/index.html>



本冊子は、印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷、VOC（揮発性有機化合物）ゼロの植物油インキ、見やすく間違えにくいユニバーサルデザインフォント、FSC®森林認証紙を採用しています。ライフサイクル全体で排出したCO₂ 160g/部、総量で3,300kgをカーボンフリーコンサルティングを通じてオフセット（相殺）しています。

お願い

本冊子をご不要になった際は、再資源化のため、お住まいの地域のルールでリサイクルくださいますようお願いいたします。